

テーマ（実践事例6、7）

- ① 駅から美術博物館のアクセスの整理について（実践事例6）
- ② 苫小牧エコ・ミュージアム構想（実践事例7）

◆実施に至った理由

苫小牧市美術博物館（あみゅー）の開館に伴い、市外からの問合せが増え、受付対応の職員がマニュアルなどを作り対応をしていた。展示の内容に加えて「公共交通機関を使用したアクセス方法」「近くで食事（特に「ほっき」を使用したメニュー）をとれるところ」「港・鳥などを勉強できるところ」「お土産を買える場所」についての問合せも増えた。

また、来館者の方の反応や、観光協会に入った問合せを聞いていると「港を学びたい」「古い建物を観られる場所」「鳥を見たい」など、館や特定の場所にとどまらず、「テーマ」に沿ったニーズを持って街を歩き回ろうとしている方が多いことが分かった。このことから、以下の2点の実践を行った。

①物理的に、苫小牧駅から美術博物館（文化公園・カルチャーストリート）や「港市場」までのアクセス方法を整理し、利便性を向上させる（とりあえず、一番問合せの多い「バス時刻表」を整理する）

②苫小牧を「特定のテーマ（例えば「港」「鳥」など）」に沿って探訪し、街全体や美術博物館の展示に立ち戻り学べる「苫小牧市内のエコ・ミュージアム構想」

※②については、まだ懸案途中である。取り掛かりのはじめとして、今年度中に実施する市民向け「苫小牧街歩き」の企画の中で、考えていきたい。

◆内容及び効果

①駅やフェリー、新千歳空港から、美術博物館（文化公園）、ぷらっと港市場など、いろいろな交通機関を結び、立ち寄った観光客の文化公園周辺施設までの利便性を向上させる（物理的な「つながり」を促す）

②過去に、いろいろな部署で発行された、すぐれた「観光案内」「文化財紹介」や、学芸員の知識や館の資料と、現在の街、美術博物館をリンクさせて、まち全てを「美術博物館」ととらえる「エコ・ミュージアム」の構想を導入することで、市内外の方の苫小牧のイメージアップや、理解を深める（街に残るいろいろな史跡、景観と美術博物館の「つながり」を、イメージしてもらう）

◆苦慮した点

○デザイン面

○情報の精査と抽出（「点」として存在していた情報を、どのように取捨選択して「線」として結びつけるか）

○情報が変わった場合の、更新方法目に止まるような資料づくりをすることに苦慮しました。